



学校だより

10月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～

ほめて！励まして！ ひと言パワー

校長 西山 久美子

朝夕に吹く風が、いつの間にか秋らしくなってきました。初めての学校生活に緊張していた1年生もすっかり学校に慣れ、自信をもって取り組む姿もたくさん見られるようになっていきます。1年間の折り返しの時期を迎えた今、子ども達の半年間の成長をうれしく感じています。

ところで、私事ですが、腕のリハビリを続けていたある日の診察時に、腕の動きを確認した医師から「ああ、いいですね。がんばっていますね。」と言われました。その言葉が何とも嬉しく、帰りの足取りが軽くなりました。自分のがんばりを認めてもらえたようで、ますますがんばろうと思えたひと言でした。ところで、私たちは日々、かけられた言葉に励まされたり、勇気をもったり、やる気を高めてもらったりしています。特に、自分が「これは、がんばったぞ。」と思ったことをほめてもらったときには、達成感や自信につながり、もっともっとやってみようという意欲が高まったという経験が誰にもあるのではないのでしょうか。ちょっとしたひと言が、その人の行動や考え方を換え、その後の歩み方にも影響を与えるものだと思うと、改めてひと言の大切さを考えさせられます。

学校では、子ども達が意欲的に物事に取り組み、自分に自信をもって活動してほしいと考えています。そして、子ども達が活動している過程において、一人ひとりががんばりにしっかりと目を向け、それを認め励ましていくことを常に意識しています。教室を回っているときに「がんばってるね。」「前よりよくなっているね。」などの教師の声がよく聞こえてきます。そのひと言で、さらに熱中して活動する子どもの姿が見られるのはうれしい光景です。また、子ども達の行動や言葉の中にも子どものよさを見つけ、それを価値づけていくことも大切なことだと考えます。配付しているプリントが落ちた時さっと拾った子に教師が「ありがとう。」と声をかけているような場面もたくさん見ます。友達に優しい言葉をかけている子に「優しい声をかけてくれたね。」、掃除当番を一生懸命やっている子に「いつも丁寧にやっていますね。」「ご苦労様。」など子ども達のよさを認めている場面にも日々出会います。ほめるひと言、励ますひと言は、子どものやる気を高めるだけでなく、自分が認められたという自信となり、次なるステップへのパワーとなるのだと思います。そして、そういう言葉が自分を大切にす気持ち、相手を大切に思う心を育てていくのです。これからも、子ども達の心を育てる「ひと言パワー」があふれる毎日にしたいと思います。

前期の振り返りにあたり、ご家庭でも子ども達のがんばってきた過程を大いにほめ、さらなる成長につながるような励みの言葉をかけていただけると幸いです。